

教科	福祉	科目	社会福祉基礎		必修・選択の別	必須
単位数	2	履修学年	2	履修学科	福祉科	
使用教科書	実教 社会福祉基礎 7 0 1			副教材等	実教 社会福祉基礎 学習ノート	
分割履修の有無（学年）		有（1）		授業形態	一斉（座学・演習）	

科目の到達目標		
・対人援助に必要な人間の理解や人間関係を構築するための技法を学び、また、対人関係形成のためのコミュニケーションの基本的な技法活用できる。 ・社会保障の基本的な仕組みや社会福祉の各分野が生まれてきた社会背景や概要などに関する学習活動を通して、各制度の意義や役割、現状と課題について理解できる。		
知識及び理解	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力、人間性等
社会福祉の基礎的な資質・能力を日常生活と関連させながら体系的・系統的に理解するとともに、実践的・体験的な学習活動を通して関連する技術を身に付ける。	現代社会における社会福祉に関する課題を発見し、職業人の求められる倫理観を踏まえ、解決する力を身に付ける。	福祉の見方・考え方を働かせて、福祉社会の創造と発展のため、主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。

学習の評価				
	学習活動、指導上の留意点等	A：十分に到達できている	B:一部は到達できている	C:到達に努力を要する
知識・技能	社会福祉の基礎的な資質・能力を実践的・体験的な学習活動を通して関連する技術を身に付けることができた。	社会福祉の基礎的な資質・能力を実践的・体験的な学習活動を通して関連する技術を十分に身に付けることができた。	社会福祉の基礎的な資質・能力を実践的・体験的な学習活動を通して関連する技術を身に付けることができた。	社会福祉の基礎的な資質・能力を実践的・体験的な学習活動を通して関連する技術を身に付けることに努めた。
思考・判断・表現	現代社会における社会福祉に関する課題を発見し、職業人の求められる倫理観を踏まえ、解決する力を身に付けることができた。	現代社会における社会福祉に関する課題を発見し、職業人の求められる倫理観を踏まえ、多角的に解決する力を身に付けることができた。	現代社会における社会福祉に関する課題を発見し、職業人の求められる倫理観を踏まえ、解決する力を身に付けることができた。	現代社会における社会福祉に関する課題を発見し、職業人の求められる倫理観を踏まえ、解決する力を身に付けることに努めた。
学習に取り組む態度	福祉に関する日常生活の身近な課題、社会的課題に関心を持ち、課題解決に向けた学習に取り組む態度を身に付けた。	福祉に関する日常生活の身近な課題、社会的課題に関心を持ち続け、課題解決に向けた方法を探究する態度を身に付けた。	福祉に関する日常生活の身近な課題、社会的課題に関心を持ち、課題解決に向けた学習に取り組む態度を身に付けた。	福祉に関する日常生活の身近な課題、社会的課題に関心を持ち、課題解決に向けた学習に取り組もうと努力した。

提出物	学習プリント、学習ノート、各種課題
評価方法	年4回定期考査（観点別の問題）、小テスト、各種提出物、課題の取り組み状況等を観点別に照らし合わせ総合的に評価
評価割合（％）	知識：技術（50）：思考・判断・表現（30）：主体的に学習に取り組む態度（20）
関連する資格・検定	介護福祉士国家試験受験資格、介護職員初任者研修、社会福祉・介護福祉検定

教科	福祉	科目	介護福祉基礎		必修・選択の別	必修
単位数	2	履修学年	2	履修学科	福祉科	
使用教科書	7 実教 福祉702 介護福祉基礎			副教材等	実教 介護福祉基礎学習ノート	
分割履修の有無（学年）		有（3年）		授業形態	一斉	

科目の到達目標		
福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、介護に関する知識と技術を身に付け、人間の尊厳を支え自立支援に必要な基礎的な資質・能力を育成することを目指している。		
知識及び技術	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力、人間性等
介護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付いている。	介護に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付いている。	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、適切な介護の実践に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付いている。

学習の評価				
	学習活動、指導上の留意点等	A：十分に到達できている	B:一部は到達できている	C:到達に努力を要する
知識・技術	人間の尊厳や自立支援、介護従事者としての職業倫理、国際生活機能分類などと関連付けて学習させる。	尊厳を支える介護、自立に向けた支援などについて理解するとともに、関連する技術を身に付けることができた。	尊厳を支える介護、自立に向けた支援などについて理解した。	尊厳を支える介護、自立に向けた支援などについて理解しようとしている。
思考・判断・表現	豊かな人間性や倫理観を育み、自立支援の観点に基づいた適切な介護福祉サービスを提供する態度を養うことができるよう留意して学習させる。	介護に関する意義と役割などについての課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ、創造的に解決する力を身に付けることができた。	介護に関する意義と役割などについての課題を発見し、自分の言葉で表現したり、解決する力を身に付けることができた。	介護に関する意義と役割などについての課題を発見したり、解決したりしようとした。
主体的に取り組む学習態度	プライバシーの保護や自己決定の保障、継続的な地域生活の支援などの人権尊重の意義や重要性について理解できるよう留意して学習させる。	介護に関する意義と役割、介護の必要性について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けることができた。	介護に関する意義と役割、介護の必要性について自ら学んだり、主体的に取り組む力を身に付けたりすることができた。	介護に関する意義と役割、介護の必要性について自ら学んだり、主体的に取り組んだりしようとした。

提出物	学習を記録したプリント、課題レポート
評価方法	評価観点別に、年4回の定期考査、小テスト、提出物、レポート等の学習への取り組み状況などを総合的に評価
評価割合（％）	知識・技術（50） ・思考・判断・表現（30） ・主体的に学習に取り組む態度（20）
関連する資格・検定	・介護福祉士国家試験受験資格 ・介護職員初任者研修 ・社会福祉介護福祉検定1～3級

教科	福祉	科目	生活支援技術		必修・選択の別	必須
単位数	3	履修学年	2	履修学科	福祉科	
使用教科書	7 実教 生活支援技術			副教材等	最新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術 II	
分割履修の有無（学年）		有（1、3 学年）		授業形態	一斉	

科目の到達目標		
福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、適切で安全・安楽な生活支援技術を提供するために必要な資質・能力を育成する。		
知識及び理解	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力、人間性等
自立生活の支援について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。	自立生活の支援の展開に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付ける。	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、自立生活の適切な支援に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。

学習の評価				
	学習活動、指導上の留意点等	A：十分に到達できている	B:一部は到達できている	C:到達に努力を要する
知識・技能	自立に向けた生活支援に必要な資質・能力を利用者主体の生活と関連させながら体系的・系統的に理解するとともに、実践的・体験的な学習活動を通して関連する技術を身に付ける。	自立に向けた生活支援について、利用者主体の生活と関連させながら理解し、関連する技術を身に付けている。	自立に向けた生活支援について理解し、関連する技術を身に付けている。	自立に向けた生活支援について理解しておらず、関連する技術も身に付けていない。
思考・判断・表現	自立に向けた生活支援の展開に関する課題を発見し、介護従事者に求められる倫理観を踏まえ、解決する。	自立に向けた生活支援の展開に関する課題を発見し、介護従事者に求められる倫理観を踏まえ、解決する方法を具体的に述べている。	自立に向けた生活支援の展開に関する課題を発見し、介護従事者に求められる倫理観を踏まえ、解決する方法を述べている。	自立に向けた生活支援の展開に関する課題を発見し、解決する方法を述べている。
態度・主体的に取り組む	尊厳の保持や自立支援に根ざした豊かな生活に向けた支援を行うため、福祉の見方・考え方を働かせ、主体的かつ協働的に取り組む。	福祉の見方・考え方を働かせ、主体的かつ協働的に尊厳の保持や自立支援に根ざした豊かな生活に向けた支援を行うための方法を具体的に述べている。	福祉の見方・考え方を働かせ、尊厳の保持や自立支援に根ざした豊かな生活に向けた支援を行うための方法を述べている。	尊厳の保持や自立支援に根ざした豊かな生活に向けた支援を行うための方法を述べている。

提出物	授業の振り返り、課題レポート等
評価方法	評価の観点別に、年 4 回の定期考査、実技テスト、提出物等の学習への取り組み状況を総合的に評価
評価割合（％）	知識・技術：50％（考査：40％・考査以外：10％） 思考・判断・表現：30％（考査：20％・考査以外10％） 主体的に学習に取り組む態度：20％（考査以外：20％）
関連する資格・検定	①介護福祉士国家試験受験資格 ②介護職員初任者研修課程 ③社会福祉・介護福祉検定 1～3級

教科	福祉	科目	介護総合演習		必修・選択の別	必須
単位数	1	履修学年	2	履修学科	福祉科	
使用教科書	なし			副教材等	なし	
分割履修の有無（学年）		有（１・３学年）		授業形態	一斉	

科目の到達目標		
福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、地域福祉の推進と持続可能な福祉社会の創造と発展に必要な資質・能力を身に付ける。		
知識及び理解	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力、人間性等
地域福祉や福祉社会について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。	地域福祉や福祉社会に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付ける。	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、地域福祉や福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。

学習の評価				
	学習活動、指導上の留意点等	A：十分に到達できている	B:一部は到達できている	C:到達に努力を要する
知識・技能	地域福祉や福祉社会について理解するとともに、関連する技術を身に付ける。	福祉に関する他の科目で学んだ知識と技術に関連させながら、介護実習で身に付けた知識や技術を具体的にまとめることができる。	福祉に関する他の科目で学んだ知識と技術に関連させながら、介護実習で身に付けた知識や技術をまとめることができる。	介護実習で身に付けた知識や技術をまとめることができる。
思考・判断・表現	地域福祉や福祉社会に関する課題を発見し、介護従事者に求められる倫理観を踏まえ解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する。	介護実習に関する自己の課題を発見し、介護従事者に求められる倫理観を踏まえ解決策を探究し、解決する方法を具体的に述べている。	介護実習に関する自己の課題を発見し、介護従事者に求められる倫理観を踏まえ解決策を探究し、解決する方法を述べている。	介護実習に関する自己の課題を発見し、介護従事者に求められる倫理観を踏まえ、解決する方法を述べている。
組学主 む習体 態に 度取 に り	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、地域福祉や福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む。	福祉の見方・考え方を働かせ、主体的かつ協働的に専門職としての支援の在り方を具体的に述べている。	福祉の見方・考え方を働かせ、主体的に専門職としての支援の在り方を述べている。	福祉の見方・考え方を働かせ、専門職としての支援の在り方を述べている。

提出物	授業振り返りシート、施設実習の振り返りシート（４回）、実習のまとめ
評価方法	授業振り返りシート、施設実習の振り返りシート（４回）、実習のまとめ等を総合的に評価
評価割合（％）	知識・技術：４０％　思考・判断・表現：３０％　主体的に学習に取り組む態度：３０％
関連する資格・検定	介護福祉士国家試験受験資格

教科	福祉	科目	介護実習		必修・選択の別	必須
単位数	2	履修学年	4	履修学科	福祉科	
使用教科書	なし			副教材等	なし	
分割履修の有無（学年）		有（１・３学年）		授業形態	実習・演習	

科目の到達目標		
福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、地域における継続した生活を支援する知識と技術を身に付け、サービス利用者主体の生活支援に必要な資質・能力を身に付ける。		
知識及び理解	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力、人間性等
介護及び支援の実践について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。	介護及び支援の実践に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付ける。	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、介護及び支援の適切な実践に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。

学習の評価				
	学習活動、指導上の留意点等	A：十分に到達できている	B:一部は到達できている	C:到達に努力を要する
知識・技能	多様な介護の場における実習において、サービス利用者主体の生活支援ができるよう、専門的な知識や技術を関連づけて取り組んでいる。	入所施設等の実習に意欲的に取り組み、専門的な知識や技術を関連づけながら、サービス利用者に応じた生活支援を実践できた。	入所施設等の実習に取り組み、専門的な知識や技術を関連づけて介護過程を実践できた。	入所施設等の実習に取り組んだ。
思考・判断・表現	入所施設等の実習に意欲的に取り組み、専門的な知識や技術を関連づけながら、サービス利用者主体の介護過程を実践できた。	入所施設等の実習を通して、学んだ知識と技術を関連させながらサービス利用者主体の介護を実践し、成果と課題を記録することができた。	入所施設等の実習を通して、学んだ知識と技術を関連させながら実践し、成果と課題を記録することができた。	入所施設等の実習を通して、学んだ知識と技術を生かして実践し、成果を記録することができた。
組 学 主 む 習 体 態 に 的 度 取 に り	多様な介護の場における実習において、自己の課題と向き合い、専門職として必要な支援ができるように取り組んでいる。	入所施設等の実習において、自己の課題と向き合い、実習担当職員のアドバイスを生かし、専門職として必要な知識や技術の向上に取り組んだ。	入所施設等の実習において、自己の課題と向き合い、専門職として必要な知識や技術の向上に取り組んだ。	入所施設等の実習において、専門職として必要な知識や技術の向上に取り組んだ。

提出物	実習日誌、介護過程の課題
評価方法	施設の実習担当職員が、実習に対する取り組み状況等を総合的に評価 A：５点 B：３点 C：２点 D：１点 E：０点
評価割合（％）	知識・技術：４０％ 思考・判断・表現：３０％ 主体的に学習に取り組む態度：３０％
関連する資格・検定	介護福祉士国家試験受験資格

教科	福祉	科目	こころとからだの理解		必修・選択の別	必須
単位数	2	履修学年	2	履修学科	福祉科	
使用教科書	実教出版 こころとからだの理解			副教材等	なし	
分割履修の有無（学年）		有（1・3学年）		授業形態	一斉（座学）	

科目の到達目標		
○発達課題や高齢者の健康について考えさせ、加齢に伴う心身の機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解させる。 ○認知症および認知症ケアの理念について理解し、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアに必要な基礎的な知識や技術を習得し、認知症の人に適切な支援を行う能力を育成する。		
知識及び技術	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力、人間性等
発達や認知症による心理面や身体機能の変化と日常生活への影響などについて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	発達や認知症についての課題を発見し、さまざまな知識・技能や情報、他科目の学習内容を活用した解決方法を考察することができた。	発達の過程、認知症の症状に応じた生活や課題等について主体的に理解しようとする姿勢が見られ、主体的かつ協働的に学習に取り組むことができた。

学習の評価				
	学習活動、指導上の留意点等	A：十分に到達できている	B:一部は到達できている	C:到達に努力を要する
知識・技術	発達や認知症による心理面や身体機能の変化と日常生活への影響などについて理解するとともに、関連する技術を身に付けた。	発達や認知症による心理面や身体機能の変化と日常生活への影響などについて理解するとともに、関連する技術を身に付け、応用的な考察につなげた。	発達や認知症による心理面や身体機能の変化と日常生活への影響などについて理解するとともに、関連する技術を身に付けた。	発達や認知症による心理面や身体機能の変化と日常生活への影響などについて理解しようとし、関連する技術を身に付けようと努力をした。
思考・判断・表現	発達や認知症についての課題を発見し、さまざまな知識・技能や情報、他科目の学習内容を活用した解決方法を考察することができた。	発達や認知症についての課題を主体的に発見し、さまざまな知識・技能や情報、他科目の学習内容を活用した解決方法を多角的に考察することができた。	発達や認知症についての課題を発見し、さまざまな知識・技能や情報、他科目の学習内容も活用した解決方法を考察することができた。	発達や認知症についての課題発見に努め、さまざまな知識・技能や情報、他科目の学習内容を活用した解決方法を見出そうとした。
主体的に取り組む態度	発達の過程、認知症の症状に応じた生活や課題等について主体的に理解しようとする姿勢が見られ、主体的かつ協働的に学習に取り組むことができた。	発達の過程、認知症の症状に応じた生活や課題等について主体的に理解しようとする姿勢が積極的に見られ、主体的かつ協働的に学習に取り組むことができた。	発達の過程、認知症の症状に応じた生活や課題等について主体的に理解しようとする姿勢が見られ、主体的かつ協働的に学習に取り組むことができた。	発達の過程、認知症の症状に応じた生活や課題等について主体的に理解しようとする姿勢が見られ、主体的かつ協働的に学習に取り組もうと努力した。

提出物	学習プリント、各種課題レポート（タブレット端末によるものも含む）
評価方法	年4回定期考査（観点別の問題）、小テスト、各種提出物、課題やグループワーク等の学習への取り組み状況等を観点別に照らし合わせ総合的に評価
評価割合（％）	知識・技術（50）：思考・判断・表現（30）：主体的に学習に取り組む態度（20）
関連する資格・検定	介護福祉士国家試験受験資格、介護職員初任者研修、社会福祉介護福祉検定

教科	福祉	科目	コミュニケーション技術		必修・選択の別	必須
単位数	2	履修学年	2	履修学科	福祉科	
使用教科書	実教 コミュニケーション技術			副教材等	自主教材	
分割履修の有無（学年）		無		授業形態	一斉（座学・演習）	

科目の到達目標		
・コミュニケーションに関する基礎的な知識と技術を習得し、援助活動で活用する能力と態度を身に付ける。 ・介護を必要とする人を理解するための基本的なコミュニケーションの技法を習得することができる。 ・他職種協働におけるコミュニケーションや記録・情報の共有化等、介護におけるチームケアのためのコミュニケーションを理解することができる。		
知識及び理解	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力、人間性等
コミュニケーションの意義と役割を理解すると共に、基礎的・基本的な知識を理解することができる。	対人援助におけるコミュニケーションの諸問題について考えると共に、介護を必要とする人の自立生活支援の現状について考えることができる。	コミュニケーションの意義と役割に関心を持ち、意欲的に学習するとともにグループ活動等を行うことができる。

学習の評価				
	学習活動、指導上の留意点等	A：十分に到達できている	B:一部は到達できている	C:到達に努力を要する
知識・技能	コミュニケーションの意義と役割を理解すると共に、基礎的・基本的な知識を理解することができる。	コミュニケーションの意義と役割を理解すると共に、基礎的・基本的な知識を十分に理解することができる。	コミュニケーションの意義と役割を理解すると共に、基礎的・基本的な知識を理解することができる。	コミュニケーションの意義と役割を理解すると共に、基礎的・基本的な知識を理解することに努めた。
思考・判断・表現	対人援助におけるコミュニケーションの諸問題について考えると共に、介護を必要とする人の自立生活支援の現状について考えることができる。	対人援助におけるコミュニケーションの諸問題について考えると共に、介護を必要とする人の自立生活支援の現状について多角的に考えることができる。	対人援助におけるコミュニケーションの諸問題について考えると共に、介護を必要とする人の自立生活支援の現状について考えることができる。	対人援助におけるコミュニケーションの諸問題について考えると共に、介護を必要とする人の自立生活支援の現状について考えることに努めた。
学習主体に組み込む態度	コミュニケーションの意義と役割に関心を持ち、意欲的に学習するとともにグループ活動等を行うことができる。	コミュニケーションの意義と役割に関心を持ち、意欲的に学習するとともにグループ活動等を主体的かつ協働的にすることができる。	コミュニケーションの意義と役割に関心を持ち、意欲的に学習するとともにグループ活動等を主体的かつ協働的にすることができる。	コミュニケーションの意義と役割に関心を持ち、意欲的に学習するとともにグループ活動等を主体的かつ協働的にすることに努めた。

提出物	学習プリント、学習ノート、各種課題
評価方法	年4回定期考査（観点別の問題）、小テスト、各種提出物、課題の取り組み状況等を観点別に照らし合わせ総合的に評価
評価割合（％）	知識：技術（50）：思考・判断・表現（30）：主体的に学習に取り組む態度（20）
関連する資格・検定	介護福祉士国家試験受験資格、介護職員初任者研修、社会福祉・介護福祉検定

教科	福祉	科目	福祉情報		必修・選択の別	必須
単位数	2	履修学年	2	履修学科	福祉科	
使用教科書	なし			副教材等	実教出版 福祉情報活用	
分割履修の有無（学年）		無		授業形態	一斉	

科目の到達目標		
福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、情報及び福祉分野における情報の活用に必要な基礎的な資質・能力を身に付ける。		
知識及び理解	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力、人間性等
情報及び福祉分野における情報の活用について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。	情報及び福祉分野における情報の活用に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付ける。	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、情報及び福祉分野における情報の活用主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。

学習の評価				
	学習活動、指導上の留意点等	A：十分に到達できている	B:一部は到達できている	C:到達に努力を要する
知識・技能	情報社会の進展に伴う情報や情報技術などについて理解する。	情報機器や情報通信ネットワークに関する知識や技術を福祉分野と関連させて理解している。	情報機器や情報通信ネットワークに関する知識や技術を理解している。	情報機器や情報通信ネットワークに関する知識や技術を理解していない。
思考・判断・表現	情報及び福祉分野における情報の活用に関する課題を発見し、介護従事者に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する。	情報及び福祉分野に関する課題を発見し、介護従事者に求められる倫理観を踏まえ、解決する方法を具体的に述べている。	情報及び福祉分野に関する課題を発見し、介護従事者に求められる倫理観を踏まえ、解決する方法を述べている。	情報及び福祉分野に関する課題を発見し、解決する方法を述べている。
主体的な学習に取り組む態度	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、情報及び福祉分野における情報の活用主体的かつ協働的に取り組む。	福祉の見方・考え方を働かせ、主体的かつ協働的に情報及び福祉分野における情報を適切に活用するための方法を具体的に述べている。	福祉の見方・考え方を働かせ、情報及び福祉分野における情報を適切に活用するための方法を述べている。	情報及び福祉分野における情報を適切に活用するための方法を述べている。

提出物	振り返りシート、課題レポート、実技試験で作成したデータ
評価方法	評価の観点別に授業内テスト（筆記・実技）、提出物（振り返りシートや課題レポート）、学習への取り組み状況などを総合的に評価
評価割合（％）	知識・技術：５０％　思考・判断・表現：３０％　主体的に学習に取り組む態度：２０％
関連する資格・検定	日本語ワープロ検定試験、情報処理技能検定試験 表計算、プレゼンテーション作成検定試験（いずれも日本情報処理検定協会）